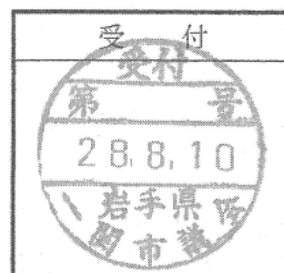


報告書

一関市議会議長 様



報告年月日	平成28年8月10日	
視察期間	平成28年7月13日～15日	
視察先	① 長野県飯田市 ② 群馬県富岡市、安中市	
視察用務	① 飯田市—再生エネルギー おひさまプロジェクト、議会基本条例 ② 富岡市—世界文化遺産と観光振興、 ③ 安中市—防災行政無線、災害対応ガイドブック、クリーンセンターと排熱利用施設	
報告者	(会派名) 希望	(代表者) 佐々木清志
参加者	議員 千葉幸男 議員 金野盛志 議員 千葉信吉 議員 佐々木清志	議員 菅原啓祐 議員 佐藤弘征
報告要旨	1. 視察目的 別紙(1) 2. 視察先概要 別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感 別紙(3)	
主要資料名	① 別紙	

別紙(1)

1. 視察目的

【飯田市】

- ① H28に『再生可能エネルギーに導入による持続可能な地域づくり』の条例制定
- ② 以前から再生可能エネルギーを活かしたまちづくりを実施し、『環境モデル推進課』を庁内に組織
- ③ 環境モデル都市は、内閣府が全国で13都市指定（応募89）東北はなし。
- ④ 議会基本条例の具体的な推進

【富岡市】

- ① 世界文化遺産登録後の状況と取組
- ② 製糸場は、片倉から市へ寄付

【安中市】

- ① 防災関係の施策（テレホンサービス、ガイドブック）
- ② クリーンセンターの運営

別紙（2）

視察先概要

【飯田市】

別紙の市政概要参照

- ・環境モデル 都市行動計画
- ・再生エネルギーによる持続可能な地域づくり
- ・決算認定にかかる提言書

【富岡市】

別紙の市政概要参照

- ・世界文化遺産と観光振興

【安中市】

- ・防災行政無線テレホンサービス
- ・防災災害ガイドブック
- ・碓井クリーンセンターと植物園運営

参考とすべき事項、所感及び提言

【飯田市】

- ① 市で計画している資源循環まちづくりの両輪として、環境モデル都市の指定を目指すべきと感じた。
- ② 事業の特徴として、初期投資ゼロの家庭用太陽光発電を推奨
- ③ 市議会が、全国初の市民会議設置、条例はH18制定
- ④ 市議会報告は全体と委員会単位
- ⑤ 決算の際に予め選定した事務事業の評価を実施
(施策の評価として有効と感じた。全部の事業の評価は物理的に困難であるが、当市でもこのような手法を検討が必要と感じた。議会運営委員会等で提言予定)

【富岡市】

- ① 文化遺産登録後、年間観光客が百万人台。
- ② 採算ベースは80万人台
- ③ 駅前などの市街地の空く店舗も解消
- ④ 難点は、宿泊が市外、近傍温泉地
- ⑤ 年間でふるさと納税が10億円あり、これを文化遺産の維持管理に。
- ⑥ 施設には、ガイドが常駐
- ⑦ この施設を守ってきた片倉の先見性

【安中市】

- ① 全ての想定される災害対応ガイドブックを作製し、各家庭に配布
- ② 編集は、釜石市で災害対応を支援した群馬大の片田教授
- ③ 作成費用は、印刷の実費程度(数百万)
- ④ 当市においても、このような対応が必要
- ⑤ なお、ガイドブックはA3の大判とした。目立つため。
- ⑥ 防災対応として、複数の手段
- ⑦ 特に、当市でも可能となる防災行政無線のテレホンサービスなどある。
- ⑧ これらは、議会のなかで提言予定。事業費も安い。
- ⑨ この他、クリーンセンターと併設する温室を視察
- ⑩ ゴミ処理は、その袋を有料化している(全国的な流れ)
- ⑪ これは、引き続き、提言。

会派行政視察質問（事前）

【飯田市】

- ① おひさま㈱と行政との関係、行政の支援体制
- ② 出資に対しての配当は？
- ③ 0円システムの進捗、反応
- ④ メガソーラーに対しての固定資産税課税の考え方
- ⑤ 蓄電への展開
- ⑥ 今後の事業展開
- ⑦ 廃棄するパネル問題
- ⑧ 営農型の有無

- ⑨ 決算認定に対しての意見書の反映状況

【富岡市】

- ① 世界遺産後の観光客数、経済効果
- ② 直接的に市への収入の有無
- ③ 今後の維持管理、保存は？

【安中市】

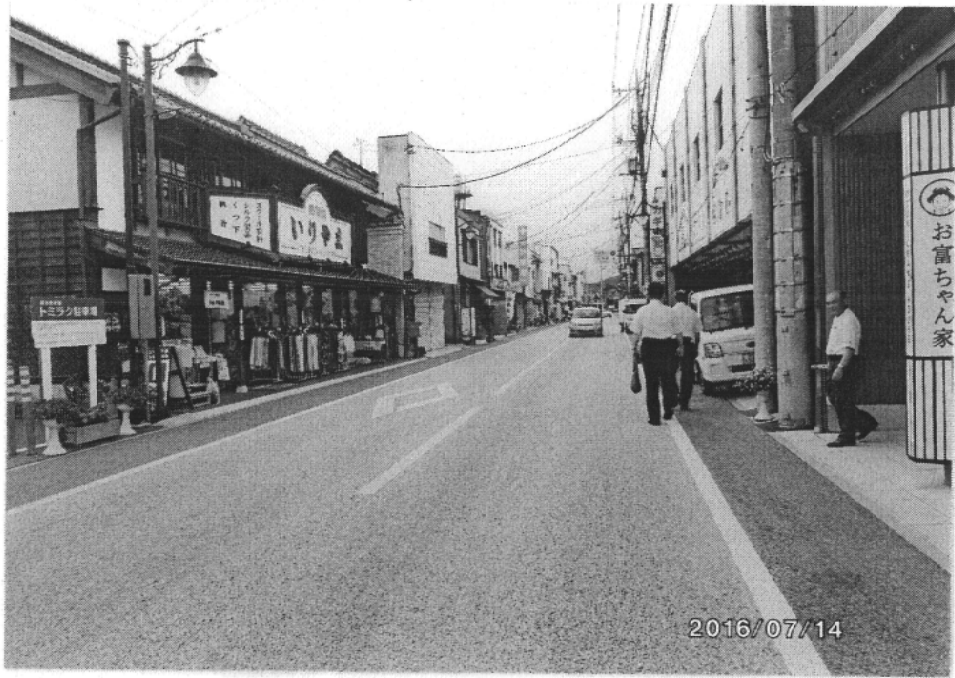
- ① テレホンサービスの初期投資、維持管理費
- ② 利用者数
- ③ 災害対応一策定の契機、要支援者への対応は？特にも個人情報との関係



飯田

新井 淳
木村 浩用





富岡市

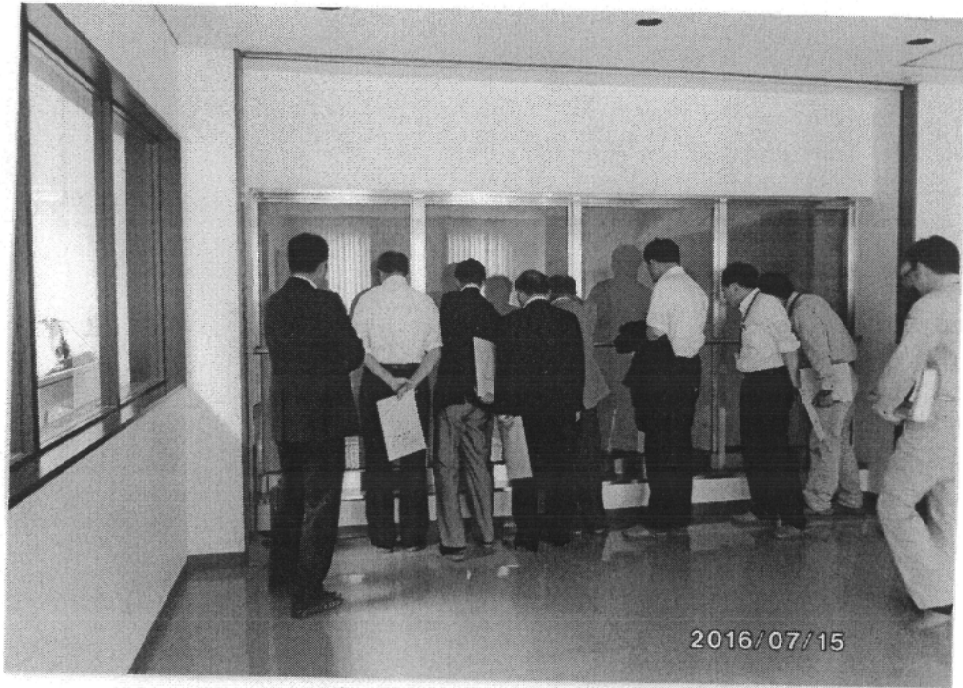
商店街
(空店舗跡)
世界遺産効果



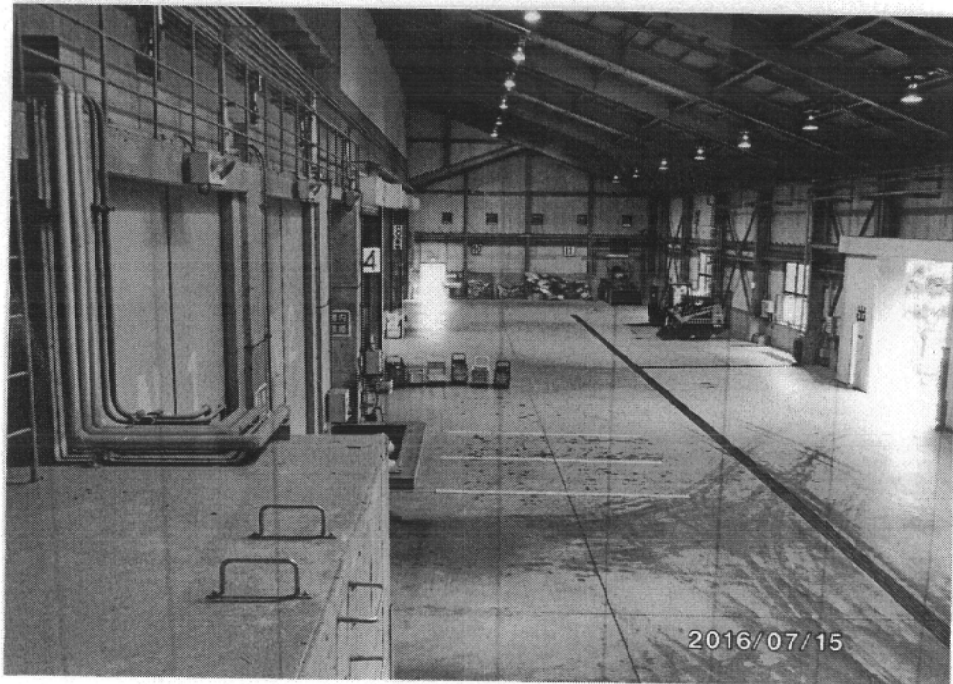


廢熱利用植物園





確水川シリーズ
(安中亭)





クリーンセンター 安中市



調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 千葉大作様



報告年月日	平成 29年2月28日		
実施日(期間)	平成29年2月2日～平成 年 2月 3日		
実施場所 (行先等)	東京都足立区 愛知県大府市		
事業区分 (いずれかに○)	研 修	○ 調査研究	要望・陳情活動 会 議
事業内容	足立区一健康長寿対策 大府市一産直(げんきの郷)		
報告者	(会派名) 希望	(代表者)	佐々木清志
参加者	議 員 菅原啓佑	議 員	千葉幸男
	議 員 岩淵善朗	議 員	佐藤弘征
	議 員 金野盛志	議 員	佐々木清志
	議 員 千葉信吉		
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)		
	別紙		

別紙（1）

1. 目的

足立区

- ① 区民の健康寿命は、都の平均より2歳短い。
- ② このことを新区長から、指摘され、今までの取り組みをゼロベースで見直した。（今まで、何をやっていたかとの厳しい指摘）
- ③ 当市でも、平均寿命は延びているが、健康寿命については、抜本的な対策が必要との観点から視察した。

大府市

- ① 大府市は、金メダルのまちを標榜し、当市と同じように小型家電廃棄からメダルを製造する動きのまち。女子レスリングの拠点。
- ② 大消費地の名古屋が控えているが、農協が経営する産直があり、その経営状況、運営の秘訣について調査

別紙（2）

概要

足立区

① 区の現状分析

- ・平均寿命が都平均より2歳低い
- ・糖尿病が都内で最多。重症化すれば、透析。
- ・背景として生活保護も多い。
- ・野菜を食べない。目標は350グラム。区内は200台。

② 対策

- ・野菜を食べる運動の展開—ベジタブルライフ
- ・ベジタブルライフ店の指定
- ・給食、食育の徹底—食べるあいさつ『いただきます。野菜から』

げんきの郷

- ① 現在は、3つの農協が合併したが、合併前の1農協が産直の経営を志向し、自ら積み立てを実施
- ② 従来は、キャベツなどの重量野菜の産地、しかし、高齢化、耕作放棄地、価格暴落、雇用創出、組合員の福利厚生を目的として持続可能な対策を実施
- ③ 現在な、JA あいち知多が親会社として経営。JA げんきの郷は、株式会社として経営、役員はJA から出向。社員は200名
- ④ 面積は、7ha 余、駐車場は700台整備
- ⑤ 年間売り上げは、三十数億余、一日平均で10,000千円
- ⑥ 生産者は、最初は1,000名。現在は540名
- ⑦ 売り上げは、最高は3,000万以上が6名。100万以下が主流。
- ⑧ 高額な販売者は加工をしている。
- ⑨ 手数料は15%。B品は20%。
- ⑩ 目揃会を行い、良い品を高価で売る。
- ⑪ 付近には、国や県の施設もできたが、この産直を中心に地域振興

別紙(3)

2. 参考とすべき事項・所感

足立区

- ① この取り組みがNHKスペシャルで放映された。
- ② 最小費用で、大きな取り組みである。当市でもこの運動を参考した取り組みが可能。3月議会で早速、一般質問を予定
- ③ 当市の健康21計画のなかに、具体的な取り組みを提言する。
- ④ まず、主体的に推進している担当課長に講演を依頼し、給食関係や食生活改善推進員に対し、周知することを提案したい。

げんきの郷

- ① 当市の農業生産額は全国自治体のなかで、29位である。その大部分は、加工するプロイラー関係である。
- ② 加工で、付加価値を上げることが生き残る。

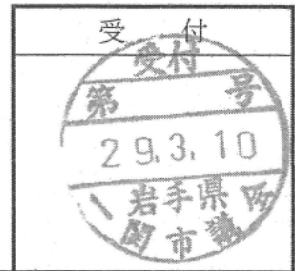
③ 川崎でも年間4億円超、さらに、今回、室根にも開業予定。

行政、JAの役割として、加工に向けた支援が重要。

今、食と農関係に脚光をあびている、この時期を逃すことのないよう施策の拡充を提言する。

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 千葉大作様



報告年月日	平成29年3月10日		
実施日(期間)	平成29年3月10日～平成 年 月 日		
実施場所 (行先等)	栗原市		
事業区分 (いずれかに○)	研 修	○ 調査研究	要望・陳情活動 会 議
事業内容	農業系廃棄物のたい肥化実証調査		
報告者	(会派名) 希望	(代表者)	佐々木清志(印)
参加者	議 員 菅原啓祐		議 員 千葉信吉
	議 員 佐藤弘征		議 員 金野盛志 (印)
	議 員	(印)	議 員 (印)
	議 員	(印)	議 員 (印)
	議 員	(印)	議 員 (印)
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)		
主 要 資料名	実証試験の記録(栗原市提供)		

別紙（1）

1. 目的

福島大原発事故由来の農林系廃棄物処理について、焼却しない方法として、堆肥化の実証試験について、金成有機センターを視察

別紙（2）

概要

- ① 宮城県は、混焼を予定
- ② しかし、栗原、登米市は、堆肥化や漉き込みで、焼却しない方法を方針
- ③ そのための方法として、堆肥化の実証
- ④ 方法として、東大の支援を得て、牧草を堆肥化
- ⑤ 現在までの試験結果では、この方法で可能でないか。
- ⑥ この春に草地に施用し、6月にも結果が出る。
- ⑦ 課題は、処理を行うと、約4倍に増加する。使用する農地確保が課題。
- ⑧ 堆肥は、無償で提供する考え
- ⑨ この費用は、東電の損害賠償を予定（受け入れる見込み）

別紙（3）

2. 参考とすべき事項・所感

- ① 焼却しない方法として有効
- ② 課題は、農地確保
- ③ 6月にも、結果が出た時点で再度調査したい。